

Anyの意味記述の困難さ

田 中 実*

Difficulty in Describing the Meaning of *Any*

Minoru TANAKA

要 旨

極めて基本的な英語の日常語である *any* の意味は、実は辞書を見ても学術研究を見てもすぐわかるようには記述されていない。そこで、まず辞書に関して、英和辞典、英英辞典で *any* の意味がどのように記述されているか考察した。英和辞典では、3つの点が明らかになった。(1) Polarity 的な記述、つまり *any* は非肯定文(疑問文、条件節、否定文)で使われ、肯定文では *some* を用いる。(2) 肯定文で使われる *any*。(3) *any* の修飾する可算名詞の単・複数の違いを提示。一般英英辞典は、情報量が不足しすぎている。学習用英英辞典は、それよりは情報量が多いが、やはり不十分。*Any* の学術研究には、数量に中心をおいたもの、semantic features に焦点を当てたものがある。こうした *any* の意味記述の中で問題として浮かび上がったのは、「『訳』による説明」の首尾一貫性の欠如、単・複数名詞と数量・種類の意味の混乱、*any* の指す数量に焦点を当てることの問題点、詳細すぎてその意義の疑わしい分析などである。最後に、わかりやすい *any* の意味記述の仕方として、radial structure, family resemblance による捉え方を示唆した。

キーワード：意味特徴、数量、種類、不特定性、任意性

1. 本研究の目的と背景

Any という用語については Sahlin (1979) というような極めて詳細な研究がある。その一方で、*any* は極めて日常語であり、この語の理解・使用にはほとんど困らないはずである。少なくとも、native speakers にとってはこの語の意味を調べる必要はないであろう。ところが、

*助教授 英語学

any の学問的研究を見ても、あるいは英語の辞書を調べてみても、その意味を捉えようとする
とスルリと抜け落ちてしまう。そこで、本研究では何が any の意味を捉えるのを難しくしてい
るのか、any の意味を捉える上であるいはそれを記述する上でどのような混乱があるのかを考
察してみたい。

2. Review 意味の捉え方

ここでは、2つの種類の資料について any の意味の捉え方を調査してみる。1つは、英語の
辞書である。英和辞典といわゆる英英辞典があるので、別々に検討してみる。もう1つは、
any に関する学問的研究である。

2.1 英語辞書に見る any の意味

本研究で調べてみた辞書の一覧は次の通りである。後に各辞典に言及する場合、それとわか
る形で縮約した名称を用いるか（例、スーパー・アンカー英和辞典第3版→S アンカー）、あ
るいは次の一覧の各辞典に付記した省略形を用いることにする。

英和辞典：

- 新英和中辞典第6版（[新英和]）
- スーパー・アンカー英和辞典第3版（[SA]）
- ニューヴィクトリーアンカー英和辞典第2版（[NVA]）
- フェイバリット英和辞典第3版（[F]）
- ニュープロシード英和辞典（[NP]）
- Eゲイト英和辞典（[E]）
- ジーニアス英和辞典（[G]）
- レキシス英和辞典（[L]）
- ウィズダム英和辞典第2版（[W]）
- プログレッシブ英和中辞典第2版（[P]）
- リーダーズ英和辞典第2版（[R]）

英英辞典

- The Concise Oxford Dictionary 6th ed. (COD 6)
- The Concise Oxford Dictionary of Current English 8th ed. (COD 8)
- Webster's New World College Dictionary 4th ed. (Web)

The American Heritage Dictionary of the English Language, 4th ed. (AH)
New College Edition The American Heritage Dictionary of the English Language (AH C)
Cambridge International Dictionary of English (CIDE)
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English 6th ed. (OALD)
Longman Dictionary of Contemporary English, Third Edition with New Words supplement
2001 (LDCE)
コリンズコウビルド英語辞典 (1987 版) (COBUILD 87)
Collins COBUILD English Dictionary (1995 版) (COBUILD 95)

英和辞典と英英辞典にももちろん共通点はある。だが、むしろ、英和辞典間の共通性、英英辞典間の共通性の方が顕著である。英和辞典は、もちろん英語学習者向け辞書である。リーダーズのように中・高生のような学習者ではないもっと専門性の高い英語使用者を対象としているものもあるが、それでもそれを利用するのは英語母語話者ではない、日本人である。この広い意味で、英和辞典は英語学習者用の辞書である。Native English speakers 用のものではなくて、Japanese learners' of English のための辞書である。したがって、ネイティブ向けの辞書（英英辞典）とは異なる編集方針があつておかしくない。英英辞書であつても、語学習者（外国人用）向け辞書もあり、そうした学習者向け英英辞書は native のための英英辞書（e.g., American Heritage, Webster's, COD）とは異なる。ただ、おそらく辞書編纂の歴史的経緯の違いから英語学習者用英和辞典と同じく英語学習者用ではあるがネイティブ用英英辞典とでは、違いがあるようだ。

2.1.1 英和辞典

統語的な観点から、疑問文、条件節、否定文、肯定文での使用を区別して意味、用例を記載している。もちろん、英和辞典がすべて同じ記述の仕方ということはない。だが、上記英和辞典からは次のような傾向が観察される。(A) Polarity 的な記述、つまり any は非肯定文 (non-affirmative sentences 疑問文、条件節、否定文) で使われ、肯定文では some を用いる。(B) 肯定文で使われる any。(C) any の修飾する可算名詞の単数、複数の違いを提示。

(A) Polarity 的な記述

Any は、疑問文・条件節、否定文で用いられ、全体としては疑問文・条件節には「何か」、否定文には「何も」という訳がつく。これに対し、肯定文では some を用いる。通常次のよう

な但し書きが付く：疑問文・条件節，否定文で some を用いる時は，肯定への期待，予期がある。

具体的には，次のような記述になっている。

疑問文・条件節，否定文では any，肯定文では some を用いる：

レキシス，N プロシード，フェイバリット

[C] 複数形/[U] に関して，疑問文・条件節，否定文では any は，肯定文の some に相当：

E ゲイト

疑問文（疑問文だけに言及して）では any，平叙文では some を用いる：

プログレッシブ（疑問文での some について但し書き付き）

特に non-affirmative は any，affirmative は some という polarity を表記していないもの：

ジーニアス，

*ウイズダムは，some, any と肯定文，非肯定文（non-affirmative clauses）の関係を，「相性」と捉えている。なかなかすばらしい点である。

こうした some, any の捉え方には厳しい批判もある。例えば，マーク・ピーターセン（2004）は，「なんと『some は肯定文，any は疑問文や否定文に使う』と，英語の常識のようなものとして現に教わってきた... こんな根拠のない『ルール』はいったい何なのかと不思議に思って...」（p.11）と記述している。また，古くは Bolinger（1977）でも，some と any は統語的も意味的にも独立した用語で，対になっているわけではないとしている。

もっとも，特に non-affirmative は any，affirmative は some という polarity を表記していない辞書もある。ジーニアス，ウイズダムである。とりわけウイズダムは，some, any と肯定文（affirmative clauses）・非肯定文（non-affirmative clauses）の関係を，意味的な相性と捉えている。本研究もこの考え方を指示する。

Any に関して，日本語にする上での類似性があるからなのか，それとも英語本来において意味的な類似があるからなのか，疑問文・条件節はひと括りに分類，あるいは提示されることが多い。まず，下記の表を参照して欲しい。

疑問文・条件節「何か」vs. 否定文「何も」

疑問文・条件節

レキシス

いくつかの，いくらかの，多少の；何かの，どれかの

Anyの意味記述の困難さ

N プロシード	いくらかの, 何らかの
新英和中	[C] 複数形 / [U] いくらかの..., 何人かの... [C] 単数形 何か [どれか] 一つの, だれか一人の
リーダーズ	複数形 なにか, どれか, だれか; いくらか, 少しは, 少しでも 《不定冠詞に対応する》 単数形 なにか, だれか
NV アンカー	いくらかの; 何か, だれか
ウィズダム	[通例 [C] 名詞単数形の前で] 何か, だれか, どこか, どれか
フェイスバリット	(同じ項目に入れて, 訳を分けている) 疑問文で いくらかの, いくつかの, 何らかの 条件節で いくらか (でも), 少し (でも)
S アンカー	疑問文で いくらかの, 何らかの, 何か, だれか 条件文で いくらかの, 何らかの, 何か, だれか
プログレッシブ	疑問文 何か, どれか, だれか, いく人か 条件文, 疑念を表す文 何か, どれか, だれか, いくらか, いく人か
E ゲイト	[C] 複数形 / [U] 数・量の不特定性 肯定文の some に相当 疑問 いくらかの, 少しの; いくらかの [少しの] ...でも [C] 単数形 種類の不特定性 任意性に強調を置く 疑問 何らかの, だれか [C] 複数形 / [U] 数・量の不特定性 肯定文の some に相当 条件 いくらかの, 少しの; いくらかの [少しの] ...でも [C] 単数形 種類の不特定性 任意性に強調を置く 条件 何らかの, だれか; どの...でも, どんな...でも
Genius	疑問 何か, <u>少しでも</u> , どれか, だれか 条件 <u>どれでも</u> , <u>だれでも</u> , 1つ [1人] <u>でも</u> , <u>少しでも</u>
否定文	
レキシス	少しの...も (ない), いかなる...も (ない)
N プロシード	少しの...も (ない), なんらの...も (ない)

フェイバリット	少しも [何の] … (ない)
プログレッシブ	何も, どれも, だれも, 少しも
S アンカー	少しも, 何も, だれも (…ない)
新英和中	[C] 複数形 / [U] 少しも (…ない), 何も (…ない), だれも (…ない) [C] 単数形 何か一つの (…もない), だれか一人の (…もない) 《a (n) の代用であるが, やや強調的》
リーダーズ	複数形 なにも, だれも, どれも; 少しも; たいして, いくらも 《不定冠詞に対応する》 単数形 なにも, だれも
E ゲイト	[C] 複数形 / [U] 数・量の不特定性 肯定文の some に相当 否定 少しの…も (ない) [C] 単数形 種類の不特定性 任意性に強調を置く 否定 何の…も (ない), どんな…も (ない)
Genius	どれも, 何も, だれも; 少しも 《◆日本語では訳さないことが多い》

疑問文・条件節がひと括りに分類・提示されている辞書としては、レキシス、N プロシード、新英和、リーダーズ、NV アンカー、ウィズダム（単数可算名詞の前での使用に限るが）、フェイバリット（同じ項目に入れて、訳を分けている）がある。このように明確にひと括りにして表記していない場合でも、疑問・条件の類似性は何らかの形で読み取れる。S アンカーでは、「疑問」「条件」を別項目に分けているが与えている訳はまったく同じである。プログレッシブでも、「疑問」「条件」を別項目に分けているが、与えている訳はほぼ同じである（「疑問・条件」の訳に対し、「否定」の訳は異なる）。E ゲイトでも「数・量」と「種類」の2つに分けて、それぞれにおいて「疑問」「条件」を別項目に分けているが、与えている訳はほぼ同じである（ここでも「疑問・条件」の訳に対し、「否定」の訳は異なる）。ウィズダムでは、疑問文、条件節での使用を別項目として扱っている。だが、かなり共通した和訳が与えられている：「いづか（でも）、少し（でも）」。これらは、否定文での和訳「少しも（…ない）、1人も [1つも]（…ない）、何も [だれも]（…ない）」とは異なる。ただし、ジーニアスでは、疑問、if-clause は別項目であり、しかも与えている和訳もけっこう異なる。一部「少しでも」は共通している。

上記の表では例文を掲載しなかったが、例文まで吟味していくと、どうも日本語における訳の問題ではないように思われる。疑問、条件は命題を宙ぶらりんにするのに対し、否定はそれ

ウィズダム どんな…でも, だれでも, 何でも, どれでも, いつでも, どこでも
 [主に肯定文, 時に否定文・疑問文・命令文で]
 通例 [C] 名詞単数形, 時に [U] 名詞, [C] 名詞複数形の前で用いる

与えられている訳には特に問題がなさそうである。人・物の違いによる修飾対象により異なった訳語を与えている場合があるが、とくに問題はない。

時に「みんな, すべて」という訳語があるが(フェイバリット, プログレッシブ, 新英和), これは誤解を与える。(肯定文で使われる) any の誤ったイメージ, 意味理解を学習者に与えてしまいかねない。all, every と同じ意味という印象を与えてしまう。実際, 学習者から any と all, every の違いは何ですかと質問を受けることがある。日本語翻訳の問題として, 時に文脈から「みんな, すべて」となる場合があるかもしれないが, 辞書にこのような「訳=意味」を与えるのは問題であろう。

(C) any の修飾する可算名詞の単数, 複数の違いを提示

Any が修飾する語が可算名詞の場合, 単数形・複数形両方が可能である。単複どちらを修飾するかに関して項目を分けている場合がある。意味の違いがあると捉えて, それを提示しているのである。Any が複数名詞に付く場合, E ゲイトは「数・量の不特定性」, リーダーズは「不定冠詞に対応する」としている。単数名詞付く場合, E ゲイトは「種類の不特定性・任意性に強調を置く」としている。リーダーズは, これとは少し異なり「ONE に近い用法」としている。またウィズダムは「a (n) の代りに不定のものを表す」としている。それぞれの辞書に挙がっている例文を以下に挙げて検討してみる。

疑問文 複数可算名詞について:

- (1) Are there *any* messages for me? なにか私への伝言 ([E])
- (2) Do you have *any* friends in Kyoto? 京都に(何人か)友人がいますか [新英和]
- (3) Do you have *any* matches [money] (with you)? マッチ [お金] をお持ちですか [新英和]
- (4) Are there *any* shops [stores] there? そこには店がありますか [新英和]
- (5) Do you have *any* pets? 何かペットを飼っていますか [W]
- (6) Are there *any* more questions? シチュエーションはまだ残っていますか [W]
- (7) Have you (got) *any* matches [money] with you? マッチ [お金] をお持ちですか [R]

疑問文 単数可算名詞について：

- (8) Is there *any* problem with the project? 何か問題 [E]
- (9) Do you have *any* interesting stories to tell? 何かおもしろい話 [E]
- (10) Did you go to *any* museums on the weekend? どこかの博物館 [E]
- (11) Is there *any* book in which I can look it up? それを調べることのできる本がありますか [新英和]
- (12) Is there *any* country you would like to visit? 訪れたい国はどこかありますか [W]
- (13) Can you think of *any other* way of doing it? それをするための何かほかの方法を思いつきますか [W]
- (14) Have you *any* friend in Boston? ボストンにだれか友だちがいますか [R]

Anyは数量、種類について不特定性、任意性を表すと言える。したがって、anyの修飾する可算名詞の複数形・単数形の違いにより、確かに、複数形は数量を意識させるので「数・量の不特定性を表す」、その一方単数形は「種類の不特定性・任意性に強調を置く」という説（主張、解釈）は魅力的である。

だが、上記の例を見る限り、さほど明確なものではなさそうである。確かに、そうした複数形・単数形の意味機能が「anyの数量、種類」について多かれ少なかれ作用していると思われる。だが、それほど単純ではなさそうである。他の要素も関係している。例えば、上記「疑問文 単数可算名詞」で、Eゲートは3つの例(8)、(9)、(10)を挙げているが、そのうち2つ(9)、(10)は単数どころか複数形の例になってしまっている。(9) Do you have *any* interesting stories to tell? では、種類を聞いているとしても、1つの話に絞るいうよりは複数視野に入れるほうが自然な場合なのであろう。(10) Did you go to *any* museums on the weekend? についても基本的に同じなのであろう。

一方、(1) Are there *any* messages for me? では、複数形だから数量ということもあるが、それだけでなく始めから種類は問題にならないのではないだろうか？(10) Did you go to *any* museums on the weekend? であれば、数量だけでなく、博物館の代りに休暇を過ごす場所として、動物園、公園、デパートなどその他の場所が視野に入る場合が想定できる。つまり種類が想起される。また、(9) Do you have *any* interesting stories to tell? でも、話の数だけでなく、「何か普通の話ではなく面白い話」とか、「怖い話、変な話ではなく面白い話し」とか、他の話の種類が視野に入る場合が想定できる。

したがって、可算名詞の単数形・複数形によってanyの意味分類の項目を分けるのは少々無

理があるのではないだろうか。ただ、数（量ではなくて）の不特定性を表す場合は、確かに可算名詞の複数形の方が自然であろう。

条件節 複数可算名詞につけて：

- (15) If you have *any* ideas, please let me know. いい考えがあったら [E]
- (16) If you meet with *any* problems, don't hesitate to ask me for help. 少しでも問題に出くわしたら [E]
- (17) If you have any pencils to spare, will you lend me one? もし鉛筆が余分にありましたら 1 本貸していただけますか [新英和]
- (18) Call me if you are in any difficulty. 少しでも困ることがあったら私に電話しなさい [W]
- (19) If you have (got) any books …本がおありだったら… [R]

条件節 単数可算名詞につけて：

- (20) If you meet *any* member of the team, please tell him to come and see me. だれかチームのメンバーにあったら [E]
- (21) If you see any book about India, buy it for me. インドに関する本が何かあったら(それを) 買っておいってください [新英和]
- (22) If there was *any* actor who could join your cast, who would you want? 配役に加えたい俳優が誰かいるとしたら、だれが望みですか [W]
- (23) If you see any interesting book, buy it for me. なにかおもしろい本があったら買っておいってください [R]

否定文 複数可算名詞につけて：

- (24) There aren't *any* students in the classroom. 教室には学生がいない [E]
- (25) He doesn't have any books. 彼には本は少しもない [新英和]
- (26) I haven't (got) any books. 本は少しもない [R]

否定文 単数可算名詞につけて：

- (27) I haven't bought *any* present for him. 何のプレゼントも [E-Gate]
- (28) It's not covered by any law. あてはまる法律はない [新英和]
- (29) There isn't any beauty salon near here. この近くには美容院は 1 軒もない [新英和]

Any の意味記述の困難さ

- (30) “I met your sister.”-“I don’t have any sister.” 「君の姉さんに会ったよ」-「おれには姉さんなんかいないよ」 [新英和]
- (31) Friend? I never had any friend. 友人だって? 友人なんかだれもいなかった [R]

肯定文

可算名詞に関しては, 通常単数形名詞に付ける ((32), (33))。

- (32) You can take *any* box on the table. テーブルの上のどの箱を取ってもいい [E]
- (33) *Any* member can use these facilities. どのメンバーもこれらの施設を使うことができる [E]

ただし, 内容的に複数であれば, 問題なく複数名詞も使用できる ((34)~(39))。

- (34) You can take *any* three boxes on the table. テーブルの上の箱をどれでも 3 つ取っていい [E]
- (35) You can get it at *any* bookseller’s. どの本屋でも買える [R]
- (36) Take *any* two cards from the pack. トランプ札をどれでもよいから 2 枚取ってください [SA]
- (37) Our offer is that you can have *any five items* of clothing you like for \$50. 当店では, お好きな衣類どれでも 5 点を 50 ドルで提供しております [G]
- (38) Save *any* foreign stamps for me. もし外国の切手が手に入ったらとっておいてくれよ [新英和]
- (39) *Any* dictionary [dictionaries] will do. どんな辞書でもいいです (= If it is a dictionary, it will do.) [W]

E ゲートには, 「【しばしば軽蔑】どんな…でも (◆名詞が指すものが「どんなに不完全なものであっても」という意味合いがある)」という説明と例文がある ((40)~(43))。

- (40) *Any* child could understand that. どんな子どもでもそのことは理解できる [E]
- (41) *Any* place would be better than here. どんな場所でもここよりはましだろう [E]
- (42) *Any* reform is better than none. どんな改革でもやらないよりはましだ [E]

(43) I am ready to accept *any* proposal (s). どんな提案でも受け入れる用意がある [E]

これは明らかに *any* の持つ「(問題となっているカテゴリーの) どのメンバーを選んでも」というところからきている。よい代表的なメンバー (good exemplar) だけでなく悪い非典型的なメンバー (bad exemplar) も含むわけであるから、こうした軽蔑的な意味合いが出て来るのである。

ここでの肯定文で使う *any* に関して、ときおり (Eゲイト, ジーニアス)「関係詞節の先行詞を修飾して」という意味合いの記述, 例文が記載されている ((44)~(46))。だが, 関係詞との関係でどのような特別な意味があるのか説明がなく, 不明である。

(44) I will accept *any* help (that) I can get. 得られるだけの援助はすべて受け入れるだろう [E]

(45) He will accept *any* money he can get. 彼は手に入るだけの金は受取るだろう [G]

(46) Borrow *any* book that interests you. あなたにとって興味ある本を借りなさい [SA]

2.1.2 英英辞典

一般英英辞典

COD 6th ed., COD 8th ed., Webster's New World College Dictionary 4th ed., American Heritage Dictionary 4th ed.

学習者用英英辞典

CIDE, OALD, COBIULD. コリンズコウビルド英語辞典, LDCE

それぞれの辞書の意味記載を下記に引用した。例文は省いている場合もある。

一般英英辞典の特徴

今回参照した一般英英辞典のどれにも「かなりの, 相当の」の意味の項目が明示的に与えられている。妙なことに, 今回参照した英和辞典はどれも *any* のこの用法を記していない。

非肯定文 (疑問文, 条件節, 否定文), 肯定文での *any* の使用, 可算単数・複数名詞における意味の違い等については, その分類がまったく不十分であり, その掲載もしていたりしていなかったりである。American Heritage, American Heritage New College, Webster's では, 極めて不十分な意味記載の仕方である。ネイティブにとっての辞書なので, *any* のようなあまりに基本

Any の意味記述の困難さ

的な語について参照するようなことはないであろうから、これでも別に問題はないのであろう。

憶測であるが、通常の any の意味記述についてはかなりなおざりであるが、「かなりの、相当の」を表す any は native にとってもちょっと特異な (idiosyncratic) 用法なのかもしれない。それゆえ、どの辞書にも必ず掲載しているのかもしれない

The American Heritage® Dictionary of the English Language: Fourth Edition, 2000.

ADJECTIVE:

1. One, some, every, or all without specification:

- *Take any book you want.*
- *Are there any messages for me?*
- *Any child would love that.*
- *Give me any food you don't want.*

2. Exceeding normal limits, as in size or duration:

- *The patient cannot endure chemotherapy for any length of time.*

New College Edition The American Heritage Dictionary of the English Language

adj.

1. One, no matter which, from three or more; a, an, or some.
2. Some, regardless of quantity or number.
3. The smallest quantity or number of; even one.
4. Every

Webster's New World College Dictionary Fourth Edition, 1999, Macmillan · USA

adj.

1. one, no matter which, of more than two [*any pupil may answer*]
2. some, no matter how much or how little, how many, or what kind [*he can't tolerate any criticism*]
3. without limit [*entitled to any number of admissions*]
4. even one; the least amount or number of [*I haven't any dimes*]
5. every [*any child can do it*]
6. of considerable size or extent [*we won't be able to travel any distance before nightfall*]

The Concise Oxford Dictionary of Current English, Eighth edition, 1990, Oxford University Press

adj.

1. (with *interrog.*, *neg.*, or conditional expressed or implied)
 - a. one, no matter which, of several (*cannot find any answer*).
 - b. some, no matter how much or many or of what sort (*if any books arrive; have you any sugar?*).
2. a minimal amount of (*hardly any difference*).
3. whichever is chosen (*any fool knows that*)
4. a. an appreciable or significant (*did not stay for any length of time*).
 - b. a very large (*has any amount of money*).

The Concise Oxford Dictionary, sixth edition, 1976, Oxford at the Clarendon Press

a. & pron.

1. (With *interrog.* or *neg.* expressed or implied)
 - one or some but no matter which (*have you any wool?; have you any of them?; cannot any of them; hardly any difference; to avoid any delay; not having ~, (colloq.) unwilling to participate*);
 - whichever (of all) is chosen (*any fool knows that; in any CASE; any MORE; at any RATE; ~ time, (colloq.) at any time; has ~ amount (a great deal) of money*);
 - an appreciable or significant (*did not stay for any length of time*).

学習者用英英辞典の特徴

一般英英辞典よりは記述の仕方がしっかりして親切になっている。anyの意味の分類、提示の仕方は英和辞典のそれに近くなっている。

Anyの意味、使用の仕方を学習しようという学習者のレベルを考えると、説明に使う英語とのバランスがとれていない。難しすぎるであろう。

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, Sixth Edition, Oxford University Press, 2000

det. pron., adv.

- 1 used with uncountable or plural nouns in negative sentences and questions, after *if* or *whether*, and after some verbs such as *prevent*, *ban*, *avoid*, etc. to refer to an amount or a number of sth., however large or small:

否定と疑問を一緒にしている、条件がない。可算では複数名詞(だけ)を修飾するとしている。例文も、単数形を修飾する例は挙がっていない。

HELP In positive sentences **some** is usually used instead of **any**

2 used with singular countable nouns to refer to one of a number of things or people, when it does not matter which one.

上記の複数に対し、「単数可算名詞」と明記してある。

「肯定文での使用」とは注意書きはないが、例文は肯定文だけである。

Longman Dictionary of Contemporary English, Third Edition with New Words supplement, 2001, Pearson Education Limited

determiner, pron

1. used to refer to each one or all members of a group, saying it does not matter which:

例文から判断すると、通例「肯定文」について

2. used especially in questions or as part of a negative statement to mean some or even the smallest amount.

「疑問文と否定文」について

3. as much as possible; all.

· *They're going to need any help they can get.*

Collins COBUILD English Dictionary, 1995, HarperCollins Publishers

1 You use **any** in statements with negative meaning to indicate that no thing or person of a particular type exists, is present, or is involved in a situation.

要は、「否定文」について

2. You use **any** in questions and conditional clauses to ask whether there is some of a particular thing or some of a particular group of people, or to suggest that there might be.

「疑問文と条件節」について

3. You use **any** in positive statements when you are referring to someone or something of a particular kind that might exist, occur, or be involved in a situation, when their exact identity or nature is irrelevant.

「肯定文」について

Collins COBUILD English Dictionary

コリンズコウビルド英語辞典, Collins, 秀文インターナショナル, 1987

1. You use **any** in negative statements, questions and conditional clauses

非肯定文「否定文, 疑問文と条件節」について

1.1 when you want to mention something but when you do not want to say that it definitely exists.

1.2 when you are suggesting that something is so small or unimportant that it is not worth mentioning or considering.

2. You use **any** in positive statements when you are referring to something or someone without saying exactly what, who, or which kind you mean, often because being exact is not possible or does not matter.

「肯定文」について

Cambridge International Dictionary of English, Cambridge University Press (CIDE) 1995

any **SOME**

determiner [usually in negatives and questions], *pronoun* some, or even the smallest amount of

- Is there any of that lemon cake left?
- “Do you have any basil?” “I’m sorry, there isn’t any left.”
- We didn’t have any idea what the airfare would be.
- There was hardly any snow this winter.
- Is there any hope that he will recover?

Any の意味記述の困難さ

・ Are any of the concerts on a Saturday night?

...

・ *Very few people, if any* (= probably none, in fact), *still believe that the Earth is flat.*

...

“non-affirmative” の文を扱っている、否定と疑問。だが、条件節での使用は上記の例だけ、あまり典型的とも思えない例である。

any [NOT IMPORTANT WHICH]

determiner, pronoun one of or each of (something) or a particular amount of (something) but it is not important which

...

“affirmative” という意味の表記はないが、例文からして通例「肯定文」での使用を示しているようだ。

2.2 数量を中心に置いた any の意味の捉え方

Hirtle (1988) は、some と any の意味をいささか単純に「数量の問題」として捉えている。本研究では、any の意味の問題を対象としているが、Hirtle はそれに関して any がどれくらいの数量を指すかという問題としてとられている。Any の意味は、many/much, a few/a little などとは違い、単なる数量の大小の問題ではない。例えば、Any child can do it. という文では、child の集団の一人一人を等しく扱っているわけではなく、その集団の中の能力の一番劣るメンバーでもというニュアンスを持つ。そしてこの「ニュアンス」が any の意味にとって重要であり、持ち味となっている。

2.3 Feature approach

Any の意味を、意味特徴 (semantic features) により捉えようとするもの。意味特徴 (semantic features) は弁別特徴 (distinctive features) とも呼ばれる。意味特徴は、単に any の意味の特徴を取り出そうとしているだけでなく、それと対立する語 (some) あるいは類似の働きをもつ語 (a (n), many/much, a few/a little など) との区別をするのに役立つ。さらに any の持つ様々な意味の区別をするのにも重要な役割を果たすと考えられる。Tanaka (2005) でも取り上げたが、このような any の分析方法は、Sahlin (1979), 池内 (1985), Hirtle (1988), 川瀬 (1989) などがある。特に Sahlin の any の分析は極めて詳細で、その結果として any の様々な意味を捉えるために多くの意味特徴が提案されている。[Stress], [Article], [Definite],

[Selective], [Specific], [Referential], [Contrastive], [Large Quantity], [-Totality], [+Individual]。Hirtle (1988) では, Sahlin とはまた異なる [Actual (Real)] and [Hypothetical] が提唱されている。この特徴は *some* と *any* を区別するのに重要な役割を持つ。先に Hirtle (1988) は, *some/any* の意味の問題を「数量の問題」として捉えていると記したが, この点に関しては [Number/Amount] という特徴を提唱し, 極めて重要な役割を与えている。池内 (1985) でも [Stress], [Selective] が *any* の意味分類に大きな役割を果たしている。川瀬 (1989) は必ずしも上記の意味特徴に焦点を置いていないわけではない。だが, *some* と *any* の意味的区別に中心的な研究課題があるため, [Specificity (特定性)], [Referential (指示)] という意味特徴が重要な要素として取り上げられている。

3. Any の意味の捉えることの難しさ

3.1 「『訳』による説明」の首尾一貫性の欠如。

ジーニアスの条件文における *any* の『訳』による説明の中で「～でも」が「条件」における意味として特徴的と思われる。だが, 「～でも」が常に条件の中での *any* の使用の特徴ではない。「～でも」の方がまったくふさわしいこともある(例文 (48)), 「～でも」の訳でも成立し得るが, 「何か」で解釈しても問題ない場合もある。「～でも」と「何か」では意味は明らかに異なる。(49) *If you have any ideas, please let me know.* で, 「何かいい考えがあったら教えてください」と「少しでもいい考えがあったら教えてください」とでは, そのニュアンスは明らかに異なる。*If you have any ideas, please let me know.* 自体には, 最初から「～でも」という特徴があるというわけではないのであろう。「～でも」「何か」両方の意味を持つ多義性を持っていると言える。*If*～の節が, 「～ならば」だけではなく, それとは明らかに意味・ニュアンスの異なる「たとえ～でも」の意味を持つものと同じであるように思われる。*If*～の節が, 「～ならば」「たとえ～でも」のどちらの意味になるかは, 統語論的に決まるわけではなく, 意味論・語用論的な文脈による。例えば, *I will do it (even) if it kills me.* (たとえ命を落とすとしてもやります) ([R]), *I shall tell him if he comes.* (彼が来たら話しましょう) ([R]) のように。

ジーニアス英和辞典

- (47) *If you eat any cake, I'll beat you.* もしケーキをひとつでも (無断で) 食べたら, ぶつからね
- (48) *If you have any difficulty, ask me for help.* もし手に余るようなことがあれば, 私に助け

を求めなさい (「～でも」という訳は与えていないが、文の意味としては「少しでも大変なことがあれば」である。)

E ゲイト英和辞典

(49) If you have *any* ideas, please let me know. いい考えがあったら教えてください

3.2 Any の修飾する可算名詞の単数・複数の問題

E ゲイトに *any* に可算複数名詞が付く場合、「数・量の不特定性、肯定文の *some* に相当する語、特に強調する必要がなければ強勢を置かずに発音」とある。「複数名詞」という意味では、Sahlin (1979) の分類する Any I (the indefinite non-assertive article) かもしれない。というのは、“*Any* in general occurs with Sg Count in the vast majority of cases. ... (75%). ... Strangely enough, however, this is not the case with Any I in the same material: ... a minority were in the singular (... 47%). [つまり、複数形の方が多い] This may partly account for the fact ... that it is regarded as less acceptable than the plural by Hogg (1977:142).” (Sahlin 1979:20) とあるからである。

だが、Any I はその意味特徴として、“Any I: the indefinite non-assertive article with a qualitative (‘any (sort of) N’) and a light quantitative sense.” (Sahlin 1979:90) (下線部は筆者による) とあり、むしろ E-ゲイト的には、単数可算名詞に付く *any* の「種類の不特定性・任意性に強調」の意味に近い。どうもしっくりこない。

可算複数名詞に *any* が付く「数・量の不特定性、肯定文の *some* に相当する語、特に強調する必要がなければ強勢を置かずに発音」は、むしろ Sahlin の “Any II: ‘no matter which [unspecified arbitrary], of what kind [quality], how much or how many [quantity]’” (Sahlin 1979:97) に近い。複数名詞につく場合は、もちろん数量の不特定性を問題にするのに適しているし、種類に言及しても不自然なところはないと思われる。

3.3 数量なのか種類 (どんな) なのか?

先に見たように、*any* が複数可算名詞に付く場合、それが複数形だからといって「数」の不特定性を言っているとは限らない。「種類」ということもあり得る。にもかかわらず、複数形は「数の概念」を引き起こす機能もやはり持つ。*Any* が不可算名詞に付く場合は、単数しかないので、「量」か「種類」かは純粹に文脈によるしかない。可算名詞の単数・複数形というのを広義の文脈と解釈すれば、*any* は「数量の不特定性」か「種類の不特定性」ということになる

だろう。

なお、「種類」と称されるのは、そのカテゴリーの「メンバーの不特定性、任意性」とした方がよさそうだ。COD 8th では、“one, no matter *which*, of several” とあり、OALD では、“used with singular countable nouns to refer to one of a number of things or people, when it does not matter *which one*” (いずれも強調は筆者による) とあり、英和辞典のこの部分を振り返ってみても、この解釈の方がよさそうである。

池内 (1985) は、any の意味・用法を「任意の (数量の) メンバー (からなる任意の集合) のどれか」(p.12) と「N に属する任意の (数量の) メンバー (からなる任意の集合) のどれをとっても」(p.12) に分類している。後者を、通常肯定文で使用される any の用法で、その意味特徴を「選択の自由、任意性、不特定性」(p.143) としている。これに対し、前者をいわゆる非肯定文 (疑問・条件・否定) で使用される any の意味・用法としている。だが、これまで見てきたように、後者の特徴としているメンバーの不特定性は前者、つまり非肯定文 (疑問・条件・否定) でも使われる。ここでも混乱させられる。

3.4 Sahlin の Any I, Any II, Any III の区別, とくに実際の文での区別。

Sahlin (1979) は、Any の意味を大きく 3 つに分類し、それぞれの特徴を次のように記している。

Any I: any sort of; lightly quantitative; [+Article, -Definite, -Referential, -Specific, -Selective, ± Large Quantity, ± Pro, -Stress]

Any II: no matter which [unspecified arbitrary], of what kind [quality], how much or how many [quantity]; [+Quantifier, -Definite, -Referential, -Specific, ± Selective, ± Contrastive, ± Pro, +Stress]; [± Disjunctive, -Totality, +Individual]

Any III: primarily in surface structure assertive clauses; “quality” (‘any (kind of) N’); ‘any N, of whatever quantity’

Any I は、どちらかというところ “any sort of” とあるように「種類」について言っているようなのだが、同時に Any II と区別する重要な特徴として “lightly quantitative” がある。Any II の中の意味分類に “Non-contrastive use” というのがあり、日本語では「何か～」に近い。例文

としては, “Yet the fact remains that such institutions do set men at odds with their fellows. Is there any way *out* of the predicament?” (Sahlin 1979:97) だが, これと Any I の用法とはあまりに微妙である。Any I の例には, “But do you have *any* choice?” I knew in that moment that I did not have *any* choice.” p.20 がある。Sahlin は, この Any I, Any II の違いを “The only difference between Any I and this use is that Any II has a stronger quantitative sense due to the presence of stress-prominence: it is simply more “emphatic” than Any I.” (1979:99) と説明している。このような用法・意味分類にどれだけの有用性があるのかよくわからない。

Any III は, 主に肯定文に使用されるという意味ではわかりやすい。だが, その意味特徴が質, 数量の両者において任意, 不特定性を示すので, Any II との区別が難しくなる。

3.5 Sahlin の “Contrastive use”

Sahlin (1979) のあげる “Contrastive use” とは, 文脈的に拘束されていて, 具体的には any が付く名詞はすぐ前に言及されているという状況である。次の例で, “It is perhaps too late now to talk of mandate because it is inconsistent with what is termed political realism. But if *any* realism and feeling for truth remain in the General Assembly, it is time for men of courage to measure the magnitude of the failure and urge some new approach.” (Sahlin 1979:21), イタリックの *realism* はその前の下線を記した realism を受けている。意味としては「少しも」 “however little/small/few” という感じになる。

だが, このような “Contrastive use” を any の意味として取り上げるべきなのかについては, 判断がむずかしい。どこまで詳細に any の意味を探るべきなのかむずかしい。

英和, 英英辞書があげる例文には, 文脈がほとんどない。したがって, Sahlin があげる “Contrastive use” などはまったく扱われていない。こうした項目を挙げ, 説明, 例文を与えることは可能であろう。ただ, 学習上どれほどの効果があるかは別問題である。

3.6 Any の (意味の) 全体像 (全体の意味構造) をつかむ難しさ

Any の意味の記述ではっきりしない点は, 上記以外にもいくつかある。例えば, any が関係詞節の先行詞を修飾する場合の問題, 英和辞典が「種類」と呼ぶものは, 質 (quality) とは違うのか, 任意性とはどう違うのかという問題, stress (強勢) の問題などである。「any が関係詞節の先行詞を修飾する場合」については, LDCE の “as much as possible” (例: *They're going to need any help they can get.*) にあたると思われるが, 例文 (46) Borrow *any* book that interests you. (あなたにとって興味ある本を借りなさい) [SA] にあるように, そのような意味になる

とも限らない。質 (quality) と種類 (kind) は似て非なるもののように思えるし、集合の内「どれか」も「どれをとっても」も両者ともに任意と思える。だが、両者は明らかに違う。

強勢の問題は、どういうわけか英英辞典を除いて、多く取り上げられる。本研究では、あえて避けてきた。ストレスの強・弱は文脈から与えられるということで十分であろうと思われるからである。

このように見てくると、個々の領域でも any の意味を明快に捉え記述することはむずかしい。まして、全体像を体系的に捉えようとしても、これまでのところだと不可能に近いように思われる。

4. Any の全体的・体系的意味の捉え方への示唆

Tanaka (2005) で some の意味記述で試みたのと同様に、any の意味も radial structure を持つものとして分析できるのではないかと思われる。つまり、中核的な意味 (core meaning) があり、そこから様々な意味が拡張、横滑りをしていると捉えるのである。あるいは、family resemblance 的な意味構造 (Rosch and Mervis 1975) を持つと考えた方がいいかもしれない。Any の様々な意味が互いに関係しあってはいるが、そのすべてに共通する意味を持たないような場合である。このような観点から、これまでの辞書を含む any の意味分析の成果を生かして、any の意味をうまく捉えることができるのではないかと思われる。

ただ、詳細にしかも体系的に捉えることだけでは、不十分と思われる。Sahlin (1979) は、極めて詳細でしかもかなり体系的である。だが、わかりにくい。Any は日常使っていることばであり、直感的には簡単なはずである。その直感的な簡単さを any の意味記述の反映させる必要があると思われる。

参考文献

- 『E ゲイト英和辞典』, ベネッセ・コーポレーション, 2003.
池内正幸, 『名詞句の限定表現』新英文法選書 第6巻, 大修館, 1985.
『ウィズダム英和辞典 第2版』, 三省堂, 2007.
川瀬義清, 「Some と Any: Some に関わる問題を中心に」『西南学院大学英語英文論文集』第29巻, 1989年, pp.13-27.
『ジーニアス英和辞典 改訂版』, 大修館, 1993.
『スーパー・アンカー英和辞典 第3版』, 学習研究社, 2003.
『ニューヴィクトリーアンカー英和辞典 第2版』, 学習研究社, 2005.

Any の意味記述の困難さ

- 『ニュープロシード英和辞典』, ベネッセ・コーポレーション, 1994.
ピーターセン, マーク, 『ニホン語, 話せますか?』, 新潮社, 2004
『フェイバリット英和辞典 第3版』, 東京書籍, 2005.
『プログレッシブ英和中辞典 第2版』, 小学館, 1987.
『リーダーズ英和辞典 第2版』, 研究社, 1999
『レキシス英和辞典』, 旺文社, 2003.

- The American Heritage Dictionary of the English Language, Fourth Edition*, the Houghton Mifflin Company, 2000.
Bolinger, D. *Meaning and Form*, Longman 1977.
Cambridge International Dictionary of English, Cambridge University Press (CIDE) 1995.
Collins COBUILD English Dictionary, HarperCollins Publishers, 1995.
コリンズコウビルド英語辞典 *Collins COBUILD English Language Dictionary*, 秀文インターナショナル, 1987.
The Concise Oxford Dictionary, Sixth Edition, Oxford at the Clarendon Press, 1976.
The Concise Oxford Dictionary of Current English, Eighth Edition, Oxford University Press, 1990.
Hirtle, W. H. "Some and any: Exploring the system", *Linguistics: An Interdisciplinary Journal of the Language Sciences*, Vol. 26 no. 3, 1988, pp.443-477.
Longman Dictionary of Contemporary English, Third Edition with New Words supplement, Pearson Education Limited, 2001.
New College Edition The American Heritage Dictionary of the English Language, Houghton Mifflin Company, 1969.
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, Sixth Edition, Oxford University Press, 2000.
Rosch, Eleanor & Carolyn, Mervis, "Family resemblance studies in the internal structure of categories." *Cognitive Psychology*, Vol.7, 1975, pp.573-605.
Sahlin, E. *Some and Any in Spoken and Written English*, Uppsala, Almqvist & Wiksell International, 1979.
Tanaka, Minoru, "Radial Structure of Some", *The Journal of Kawamura Gakuen Woman's University*, Vol.17, No.2 2006, pp.49-59.
Webster's New World College Dictionary Fourth Edition, Macmillan · USA, 1999.